

# 美術博物館だより

News Letter From Tomakomai City Museum



上:天然リンクでのスケート(昭和初期) 下:樽前山神社横沼リンク(昭和初期)

## 目次 Contents

### 01 特集 1 美術博物館祭 2016

#### 02 特集 2 苫小牧市美術博物館開館3周年記念特別展 「Art and Air—空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語」

02 クローズアップ ①大学講座/②古文書解読講座

03 報告 平成 28 年度事業記録

04 展示室の貸出し事業

04 活動紹介 勇払海岸の環境に関する連携授業について

05 コラム 苫小牧市スポーツ都市宣言50周年記念企画展  
「門脇松次郎と苫小牧のスポーツ」を終えて

05 ミニコラム①/②

06 コラム アイヌ工芸品展 イカラカラ—アイヌ刺繍の世界

06 勇武津資料館通信

07 館長コラム/平成 29 年度展示会情報

07 収蔵資料紹介 展示室から/編集後記

# 特集 1

## 美術博物館祭 2016

2016年7月23日(土)～31日(日)



アート×サイエンス～手描きでアニメーション映画をつくろう

今年度から新たな試みとして「美術博物館祭」を実施しました。本事業は平成25(2013)年にリニューアルした館をより市民に身近なものとして感じていただくことを目的とするものとして行いました。期間中、館内は多くの来館者で賑わい参加者総数は2,056名に及びました。また、美術博物館登録ボランティアの皆様にも、展示作品の監視や行事参加者への対応と制作のお手伝いをしていただきました。市民との連携を事業の柱のひとつとしている当館にとっては大きな成果といえます。プログラムは「展示事業・ナイトプログラム・オープンプログラム・つくる・学ぶ」に大別されました。展示事業は藤沢レオ×中坪淳彦×千歳科学技術大学ライトアート工房「Time of Flight」と伊藤隆介映像展示「Untitled (Image of Flight)」を実施しました。美術家・藤沢レオ氏のオブジェを配した空間に、千歳科学技術大学の先端技術を用いた映像イメージを投影した前者では、意外性に満ちた映像と音響が重なりあった体験をすることができました。また後者は、パラパラ漫画の手法を応用した映像作品を展示しました。ナイトプログラムは開館時間を午後8時まで延長し、「プロジェクション・マッピング樽前山の火山の歴史を光アートでみてみよう!」「マルチビジョン特別上映会」などを実施しました。常設展示室の地層コーナーにプロジェクション・マッピングの技法を用いて、樽前山の噴火の歴史

を臨場感溢れる映像と音楽で紹介した前者は、新たな視点で展示を見ることにつながったと思います。オープンプログラムは「わくわく!縄文輪投げ」「とぼそう!紙飛行機づくり」を実施しました。いずれも遊びを通じて埋蔵文化財や特別展に関心を高めていただいただくことを目的とし、子ども達には大人気でした。「つくる」では伊藤隆介ワークショップ「アート×サイエンス～手描きでアニメーション映画をつくろう」と藤沢レオワークショップ「みんなで工作!空想航路」を実施しました。「学ぶ」では北大CISEネットの協力のもと千歳科学技術大学学生と当館学芸員を講師として「生物に学ぶ技術革新(イノベーション)蛍光って何?ホテルの光るしくみ」、「一日学芸員体験」を、エア・ドゥ北海道国際航空株式会社職員や今金町教育委員会宮本雅通学芸員を講師に、こどもサイエンスカフェ「航空教室」(協力:株式会社AIR DO)「石器わくわく教室」を実施しました。いずれも大変好評を博しました。美術博物館祭は当館が立地する出光カルチャーパークを会場に例年実施している「苫小牧アートフェスティバル」と連携する形で行います。次年度以降もより多くの市民が館に親しみを感じていただくとともに、館が持つ役割を理解していただけるよう努力していきたいと考えています。

武田 正哉(主査(学芸員)/歴史)



とぼそう!紙飛行機づくり



一日学芸員体験

## 特集 2 特別展

苫小牧市美術博物館開館3周年記念特別展

### 「Art and Air —空と飛行機をめぐる、 芸術と科学の物語—

■ 2016年7月9日(土)～9月4日(日)



青 秀佑《Phantom Scales》2016

北海道の太平洋沿岸に位置する苫小牧市は、国際拠点港湾「苫小牧港」と北海道の玄関口「新千歳空港」の「ダブルポート」を有しており、国内、海外へのアクセスもスムーズな産業拠点都市といえます。

美術博物館の開館3周年を記念し開催した本展では、「空」と「飛行機」にまつわる美術作品をはじめ、戦前や戦中の雑誌、写真等の歴史資料、そしてプロペラや模型等の航空関連資料、あわせて152点を展示し、「空を飛ぶ」ことの意味を改めて問い直すとともに、人々の意識のありようや時代の精神について焦点を当てました。

「Chapter 1：見上げる—飛行・飛翔の夢」では、レオナルド・ダ・ヴィンチが行った飛行の研究をはじめ、ライト兄弟をはじめ航空黎明期に活躍したヒーロー、ヒロインの活動を紹介し、これまで人々が空に対して抱いてきた憧れや畏怖という両義的な感情について焦点をあてました。「Chapter 2：見下ろす—天からの眺め」では、飛行機の発明によって上空から眺望する「鳥瞰」という新たな視覚体験によって変化した、人間の意識のありようを示す歌川広重や吉田初三郎の鳥瞰イメージや、支配的な視点が潜在する米軍爆撃機から空撮された富士山の写真等を紹介しました。「Chapter 3：空と飛行機の物語」では、航空関連のポスター・雑誌等の資料を展示するとともに、戦争記録画とその画集と伊藤隆介や大森記詩ら現代作家の作品を併置することで、戦前から戦後を経て現代に至るまでの時代の移り変わりのなかで変



化を遂げてきた、飛行機のイメージの受容について考察しました。そして、「Chapter 4：空を飛ぶこと」では、中村宏の飛行への偏愛が投影された絵画やアンリ・マティスの《イカロス》、棟方志功の天女など「空を飛ぶこと」自体をテーマとする作品を中心に展示構成し、「空」のもつ意味や、「飛ぶ」という行為、そしてそこに投影された「現代人」の心象について探りました。

青森県立美術館をはじめとする公共施設や団体、個人、作家等多くの借用先から優れた作品・資料を拝借した本展は、「空をとぶこと」について再考を促すと同時に、科学技術時代を象徴するモチーフとしての“飛行機”が生み出す多様なイメージに触れる機会となりました。科学技術の発展がもたらした飛行機の普及により「空を飛ぶこと」が当たり前の世の中となった“今”というこの地点において、「飛行機」や「空」に対する人々の想いについてや、「現代社会」と「現代人」の意識の在り方について改めて考察することは、見過ごされがちなものごとの「本質」について見つめなおすうえでも意義のあることではなかったでしょうか。

細矢 久人（主任学芸員/美術）

## クローズアップ

### ①大学講座

当館では毎年、「郷土について学び、より深く理解すること」を目的に、歴史、自然史、美術など様々な分野から講師を招いて、大学講座を開講しています。昭和61年から始まった本事業は今年度で30回目を迎え、162名と過去最多の受講生が集まりました。

6月4日から始まった今年度の大学講

座では「銀河の誕生と進化を追って～苫小牧から南極へ～」「北海道にやってきたカササギ～すっかり定着なぜ～」「銭湯文化のあゆみと魅力」「千島列島の考古遺跡」「北方の美術—地域性と表現の関係性」など様々な分野の講座を行い、受講生の方々に苫小牧、そして北海道について学んでいただくことが出来ました。これからも多くの方々に郷土について理解を深めていただけるよう、さらに

内容を充実させていきたいと思っています。  
佐藤 里穂（学芸員/考古）



### ②古文書解読講座

博物館やテレビ番組などで目にする古文書（こもんじょ）。一度は読んでみたいと思ったことはありませんか？

当館では、2015年から「古文書解読講座」を開催しています。講座では、初心者の方を対象に、古文書を読むために必要不可欠な字の解読やよく用いられる表現などの基礎知識から、文書の解読ま

でを学芸員と一緒に学んでいきます。参加者は、はじめは慣れない文字に悪戦苦闘し、頭を抱えるのですが…少しずつ文字が読めてくると表情が変わり、こちらの問いかけに対して積極的に声を出して答えてくれるようになります。

古文書解読は、文字を読み解く推理ゲームのような楽しさ、地域の歴史や文化などを知る楽しさの両方を味わえるのです。古文書を通して、さまざまな歴

史・文化に触れ、興味をもっといただけたら幸いです。

佐藤 麻莉（学芸員/歴史）



# 報告

## 平成28年度 事業記録

### 《特別展》

#### ■開館3周年記念特別展

Art and Air 一空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語

会期：平成28年7月9日(土)～9月4日(日)

入場者：4,129名

特別協力：青森県立美術館

企画協力：工藤健志氏(青森県立美術館 学芸主幹)

協力：所沢航空発祥記念館/苫小牧市美術館友の会/  
苫小牧市博物館友の会

後援：苫小牧商工会議所/苫小牧信用金庫/北海道新聞 苫小牧支社/  
株式会社 苫小牧民報社/株式会社 三星

#### ①オープニングセレモニー

日：7月9日(土)

参加者：80名

#### ②記念講演会「空の美と芸術について」

講師：工藤健志氏

日：7月9日(土)

参加者：48名

#### ③スペシャルギャラリートゥアー

講師：工藤健志氏/細久久人(当館学芸員)

日：7月17日(日)

参加者：17名

#### ④ギャラリートーク(全2回)

参加者：13名

### 《企画展》

#### ■生涯100年記念 砂田友治展

会期：平成28年4月29日(土)～6月26日(日)

入場者：3,640名

後援：苫小牧信用金庫/北海道新聞 苫小牧支社/  
株式会社 苫小牧民報社/株式会社 三星

#### ①砂田友治生涯100年記念 講演会&スペシャルギャラリートーク

日：4月30日(土)

第1部：砂田友治生涯100年記念講演会

「砂田友治ワールドー近代美術の展開の中で」

講師：鈴木正實氏(美術評論家連盟会員)

参加者：45名

第2部：スペシャルギャラリートーク

登壇者：鈴木正實氏/砂田陽子氏(全道展会員・独立展会友)

砂田真理子氏(札幌大谷大学講師)/高橋正敏氏(全道展  
会員・独立展会員)

参加者：45名

#### ②ギャラリートゥアー(全3回)

参加者：66名

#### ③学校連携・鑑賞授業

「色と形をあじわう～砂田友治の油彩画から～」

実施校：啓北中学校美術部

日：6月11日(土)

参加者：18名

#### ■平成28年度アイヌ工芸品展

イカラカラーアイヌ刺繍の世界

会期：前期 平成28年9月17日(土)～10月10日(月・祝)

後期 平成28年10月12日(水)～11月3日(木・祝)

入場者：4,319名

主催：苫小牧市美術館/公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進  
機構

後援：国土交通省/北海道教育委員会/公益財団法人北海道アイヌ協  
会/苫小牧信用金庫/北海道新聞 苫小牧支社/株式会社 苫小  
牧民報社/株式会社 三星

協力：苫小牧アイヌ協会/苫小牧市博物館友の会/苫小牧市美術館友  
の会

#### ①オープニングイベント

協力：苫小牧アイヌ協会

日：9月17日(土)

参加者：72名

#### ②スペシャルギャラリートーク

講師：佐々木利和氏

(北海道大学アイヌ・先住民研究センター 客員教授)

村木美幸氏(一般財団法人アイヌ民族博物館 専務理事)

日：9月17日(土)

参加者：49名

#### ③ミュージアム・トーク「アイヌの衣服から見えてきたこと」

講師：吉本忍氏(国立民族学博物館 名誉教授)

日：10月1日(土)

参加者：42名

#### ④古文書講座「蝦夷日記」をよむ

日：10月22日(土)

参加者：27名

#### ⑤ギャラリートーク(全3回)

参加者：109名

#### ■苫小牧市スポーツ都市宣言50周年記念企画展

門脇松次郎と苫小牧のスポーツ

会期：平成28年11月12日(土)～平成29年1月15日(日)

入場者：2,373名

後援：苫小牧信用金庫/北海道新聞 苫小牧支社/株式会社 苫小牧民  
報社/株式会社 三星

協力：公益財団法人苫小牧市体育協会/王子製紙株式会社苫小牧工場  
/株式会社イワクラ/北海道苫小牧工業高等学校/北海道苫小  
牧東高等学校/駒澤大学附属苫小牧高等学校

#### ①記念講演会「スポーツを通じて学んだこと」

講師：山中宏美氏(リレハンメルオリンピックスピードスケート  
5000m銅メダリスト、苫小牧市スポーツマスター)

日：11月19日(土)

参加者：40名

#### ②初心者のためのヨガ教室

講師：山中宏美氏

日：11月20日(日)

参加者：15名

#### ③ミニチュア下駄スケートをつくろう

講師：細川直直氏

日：12月11日(日)

参加者：20名

#### ④担当学芸員による展示解説会(全4回)

参加者：29名

#### ■樽前山の自然史ー躍動する大地とその恵み

会期：平成29年1月28日(土)～3月12日(日)

入場者：2,009名

協力：北海道大学植物園/北海道大学総合博物館/北海道大学苫小牧  
研究林/NPO法人環境防災総合政策研究機構/北海道開発局  
室蘭開発建設部/北海道室蘭地方気象台/北海道胆振総合振興  
局森林室/洞爺湖町有珠山ジオパーク/樽前山の自然を愛する  
会/泉田健一氏

後援：苫小牧信用金庫/北海道新聞 苫小牧支社/株式会社 苫小牧民  
報社/株式会社 三星

#### ①ミニ講座「樽前山の噴火で起こること」

講師：宇井忠英氏(北海道大学 名誉教授)  
横山光氏(北翔大学 准教授)

日：2月4日(土)

参加者：50名

#### ②「樽前山ジオラマ」をつくろう

日：2月18日(土)

参加者：24名

#### ③防災シミュレーション「もし噴火が起こったら？」

協力：室蘭地方気象台/苫小牧市危機管理室

日：3月11日(土)

参加者：31名

#### ④学芸員のミュージアムガイド(全7回)

参加者：107名

### 《収蔵品展》

#### ■コレクション展 樽前山のある風景

入場者：4,579名

会期：前期 平成28年11月12日(土)～1月15日(日)

後期 平成29年1月21日(土)～3月12日(日)

### 《中庭展示》

#### ■中庭展示 vol.7 岡本光博

会期：平成28年4月23日(土)～9月4日(日)

アーティスト・トーク+α

講師：岡本光博氏(美術家)

日：4月23日(土)

参加者：30名

#### ■中庭展示 Vol.8 上ノ大作

会期：平成28年9月17日(土)～12月25日(日)

ワークショップ「竹を使って「雲」をつくろう」

講師：上ノ大作氏(陶芸家・彫刻家)

日：11月12日(土)

参加者：23名

### 《普及事業》

#### ■美術博物館大学講座

対象：一般 登録者数：162名

#### ①入学式・「銀河の誕生と進化を追って～苫小牧から南極へ～」

講師：徂休和夫氏(北海道大学大学院理学研究 准教授)

日：6月4日(土)

#### ②「空を駆ける～人が空を飛ぶことの意味について～」

講師：工藤健志氏(青森県立美術館 学芸主幹)

日：7月16日(土)

#### ③「学校をつくる～明治期北海道のアイヌ教育の歴史～」

講師：小川正人氏



- (北海道博物館 アイヌ民族文化センター センター長)  
日：8月20日(土)
- ④「北海道にやってきたカササギ～すっかり定着なぜ?～」  
講師：長谷川理氏(エコネットワーク 主任研究員)  
日：9月24日(土)
- ⑤「銭湯文化のあゆみと魅力」  
講師：塚田敏信氏(まち文化研究所 主宰)  
日：10月15日(土)
- ⑥「千島列島の考古遺跡」  
講師：右代啓視氏(北海道博物館 学芸主幹)  
日：11月26日(土)
- ⑦「寛政十一年の蝦夷地探査使」  
講師：佐藤麻莉(当館学芸員)  
日：12月24日(土)
- ⑧「北方の美術—地域性と表現の関係性」  
講師：細矢久人(当館学芸員)  
日：1月14日(土)
- ⑨卒業式・「日本人と家畜・ペット」  
講師：西本豊弘氏(国立歴史民俗博物館 名誉教授)  
日：2月25日(土)

#### ■博物館クラブ

- 対象：小中学生 登録者数：26名
- ①開講式・タンポゴの観察しよう  
日：5月14日(土)
- ②ミクロ化石を観察しよう  
日：6月19日(日)
- ③鳥が飛ぶしくみ  
日：8月27日(土)
- ④あかりをともしよう  
日：9月25日(日)
- ⑤まが玉のペンダントをつくらう  
日：11月5日(土)
- ⑥卒業式・下駄スケートをはこう  
日：12月10日(土)

#### ■美術館広報部びとこま

共催：NPO法人 樽前artyプラス  
対象：小中学生(登録者数：17名)

#### ■古文書解説講座

対象：一般 登録者数：23名

#### ■ミュージアムラボ

- 対象：一般
- ①デッサン教室  
日：5月5日(木・祝)  
参加者：30名
- ②イカの目のしくみ  
日：8月11日(土)  
参加者：16名
- ③美術講座「成田亨とイカロスの翼—“ウルトラ”シリーズに見る日本の近代化」  
講師：神谷和宏氏(批評家・国語教師)  
日：8月27日(土)  
参加者：29名
- ④刺繍ワークショップ  
講師：関根真紀氏(アイヌ工芸家)  
日：10月29日(土)  
参加者：43名
- ⑤絵画鑑賞会(共催：美術館友の会)  
日：1月22日(日)  
参加者：16名

#### ■サイエンスカフェ@苫小牧

- ①こどもサイエンスカフェ「航空教室」  
協力：株式会社 AIR DO  
日：7月31日(日)  
参加者：66名
- ②「過去の気候を知る」  
日：11月23日(金)  
参加者：5名
- ③「野生の動物をしらべる理由：ヒトとは何なのか?を知りたかった!」  
講師：小泉逸郎氏  
(北海道大学大学院地球環境科学研究院准教授)  
日：3月25日(土)

#### ■無料開放日

- ①ゴーゴーミュージアム  
日：5月5日(木・祝)  
参加者：907名
- ②秋の美術博物館開放日  
日：11月3日(木・祝)  
参加者：941名

#### ■美術博物館祭 2016

日：7月23日(土)～7月31日(日)  
参加者：2,056名

#### ■見学会・観察会

- ①自然観察会「ハスカップをめぐる小さな旅」  
日：7月18日(月)  
参加者：36名
- ②錦岡歴史探訪  
対象：一般  
日：10月8日(土)  
参加者：10名

#### ■タンポゴ調査

日：5月15日(土)、5月18日(水)、5月22日(日)  
参加者：29名

#### ■郷土学習

期間：9月～12月  
対象：市内小学校23校3・4年生

#### ■教員のための博物館の日

共催：国立科学博物館/公益財団法人日本博物館協会  
後援：文部科学省  
日：8月3日(水)  
対象：周辺地域の教員等  
参加者：38名

#### ■出前講座・講師派遣・アウトリーチ事業

日：随時  
実施：20件(平成28年度3月12日現在)

※各事業の入場者・参加者数は平成29年3月12日現在のものとする。  
※展示事業一覧は、企画展名、開期、入場者数、関連イベントを記載。  
※明記の無い事業の主催は全て当館(苫小牧市、苫小牧市教育委員会)による。  
※協力等は該当事業のみ記載。  
※講師未記載は全て当館学芸員が担当。

## 平成28年度 展示室の貸出し事業

	展示内容	申請者	期間	来場者数 (主催者集計)	展示室
1	大友一夫 回想展	星野 邦夫	平成28年3月30日～4月5日	771人	第1・2・3
2	苫小牧美術協会春季展	苫小牧美術協会	平成28年4月6日～4月12日	531人	第1・2・3

当館では、「市民に開かれた美術館」、「文化芸術活動の拠点としての美術館」という基本理念に基づき、市内で創作活動の実績のある個人や団体等に発表の場を提供することを目的として、毎年1回、展示室の貸出し事業を実施しています。平成28年は、2団体に貸出しを実施し、主催者の意図したものが伝わった充実した展覧会となりました。

望月 ちゆき(主査)

### 活動紹介

#### 勇払海岸の環境に関する連携授業について

苫小牧東部に位置する勇払海岸には、現在も海岸の地形や海浜植物を観察できる環境が残っています。このような身近な環境を利用し、2015年から2016年にかけて、勇払中学校1学年の総合学習の授業として、担任の教員と連携して「勇払海岸の環境調査」を実施しています。

2016年は、10月14日(金)に開催し、勇払資料館で事前授業・植生や海岸の形成についてのレクチャーの後、海岸での踏査と採集(ビーチコーミング)を行い、学校に戻ってから採集した資料の分

類と同定を行いました。生徒たちは、ウバガイ、ナミマガシワ、コベルトフネガイなど貝類を採集・同定したり、ハマニンクなど海浜植物の地下茎の深さを観察したりしながら、植物や貝の分布や環境について調べました。

屋外学習の後、総合学習の時間にまとめの制作を行い、最後に発表を行いました。生活圏の違いや海岸の環境や成因の違いについても、違いをしっかりと把握していました。

当館では、これまででも勇武津資料館の観察会を継続して、現場のビーチコーミングや植物観察を継続していましたが、それにより出現する貝や植物の推移を追跡することもできます。このような観測

を続けていると、微地形の環境推移や植生の変化を記録することもできる上、授業で学んでいる要素と自分たちの地域をリンクして考え、理解することにもつながります。今後も更なる活用や継続を試みていきたいです。

小玉 愛子(主任学芸員/植物)



苦小牧市スポーツ都市宣言50周年記念企画展  
「門脇松次郎と苦小牧のスポーツ」を終えて

昨年11月、苦小牧市は全国で初のスポーツ都市宣言から50年の節目を迎え、これを記念し苦小牧のスポーツの歴史に関する企画展「門脇松次郎と苦小牧のスポーツ」を開催しました。展示では門脇松次郎(1904-1992)という人物を取り上げました。大正時代の終わりに苦小牧初の硬式野球チーム「オーロラ」を結成。創成期のスケート協会役員を務め、昭和41(1966)年のスポーツ都市宣言時には、体育協会理事長の職にあり宣言文の起草を担った門脇はまさに苦小牧にスポーツ文化を定着させた功労者でした。展示では門脇を導入としてスケート、野球の歴史から現在活躍している苦小牧ゆかりのアスリートまで幅広く取り上げました。開催にあたり、市内外在住の関係者に多くの貴重なお話をうかがいました。そうした中からみえてきたのは、この地の恵まれた自然環境とスポーツを通じて地域に活力を与えようと努力した先人の姿でした。昭和30年代まで大小の沼が点在し、冬には結氷し天然のリンクができた苦小牧はスケートには最適の環境でした。また、降雪量が少なく春にいち早く屋外スポーツに取り組むことが可能でした。元選手からは、かつて冬はアイスホッケー、夏は野球という選手が多かったこともうかがいました。大正14(1925)年に国内で3番目にスケート協会が創設され、半世紀前に「スポーツ都市宣言」を行った苦小牧にはスポーツをする・見る・支える文化が根付いています。こうした環境から多くの有為の選手が育っていきました。最後に本展記念講演会の講師を務めていただいた山中宏美氏の金言をご紹介します。王子製紙株式会社苦小牧工場在籍時の平成6(1994)年、リレハンメルオリンピック女子スピード5000mで銅メダルに輝いた山中(旧姓山本)氏は、講演の中で「スポーツには祈りがある」と語りました。スポーツには選手のみならず、指導者・家族・対戦相手・競技に関わるすべての人の祈りがあり、それが作用することにより劇的な結末が生まれるというものです。苦小牧において長期に渡り人々が熱心にスポーツに取り組んできたのも、関わる全ての人々の祈りが凝縮されていたからではないかと感じました。過去から未来へつながる苦小牧のスポーツ文化を次代までつなげて欲しいと願っています。

武田 正哉(主査(学芸員)/歴史)



ミニコラム①  
収蔵作品を活用した教育普及プログラムへの取り組み

当館では、約1,300点の美術作品を所蔵しています。コレクションの活用としては第一に展示という手法がありますが、私たちはそこからさらに踏み込み、教育普及プログラムへの展開を模索しています。ここでは、当館で今年行ったコレクションの可能性を広げるための2つの取り組みを紹介します。

一つ目が、教育教材への活用です。美術作品の写真をカードにしたアートカー

ドは、近年全国の美術館で鑑賞教育の教材としての利用が進んでいます。当館でも収蔵作品を使ったアートカードを制作し、苦小牧市立啓北中学校の美術部のみなさんと鑑賞授業を行いました。

二つ目が、子ども広報部「びとこま」の子ども記者と作るコレクションカードへの取り組みです。展覧会場で配布したこのカードは、作品画像に解説や作家情報を加え、一般来館者の鑑賞の手引きになることを目指しました。解説には子どもたちが制作時に行った作品鑑賞で得たことに重点を置き、手に取りたくなるデザインへの工夫にも力を入れています。

制作を通して子どもたちが当館のコレクションに親しみを持つとともに、郷土の美術を学ぶ機会になりました。

いずれの活動も、カードにとどまらず、実際の作品鑑賞を踏まえた、あるいは鑑賞につながるプログラムであることを心がけています。

福田 絵梨子(学芸員/美術)



ミニコラム②  
新たに仲間入りした地質標本

当館には、樽前山に関する岩石資料を中心とした多くの地質標本を所蔵しています。この度、新たに寄贈された標本について紹介します。まずは石油資源開発株式会社から寄贈いただいた試料で、苦小牧市内の油ガス田での掘削時に出た掘りくず(カッティング)や、産出した原油と有孔虫化石です。これらは平成27年度の企画展「地底旅行-地下資源をめぐる科学と美術の旅」で展示しました。苦小牧の大地の地下5,000mがどんな地

層でできているのか、さらに、眠っている地下資源を知ることができる、大変貴重な試料です。次は、ボーリングコア試料28箱。これは産業技術総合研究所による苦小牧市弁天地区および勇払地区の地質調査時に、地層から抜き取った円柱形の試料です。合わせて産出した貝化石も寄贈いただきました。これらの試料から、勇払平野から支笏火砕流台地にかけての地下地質層序が確立され、過去5万年間の環境変遷が明らかとなります。最後はアンモナイト化石15点で、世界的なアンモナイト研究者である、棚部一成氏(東京大学名誉教授)より寄贈

いただきました。北海道中川町で採集した異常巻きアンモナイトや真珠層の輝きの残るマダガスカル島のアンモナイトなど、どれも保存状態のよい標本ばかりです。これらの地質標本については、今後の展示会や行事で活躍させていきたいと思っております。

宮地 鼓(主任学芸員/地球科学)



ポリプチュセラス



衣服（アットゥシ）個人蔵

アイヌ民族の衣服には、ダイナミックかつ精緻な文様の刺繍がほどこされ、その独自の世界に心惹かれる人は少なくないでしょう。

本展は、(公財)アイヌ文化振興推進機構との共催で、道内外より集めた儀礼で使用された晴れ着や装身具など18世紀から現代にいたるアイヌ民族の服飾について紹介しました。

今回、北海道初公開が叶った資料は、現時点では、収集年代のわかるアイヌ民族の衣服としては最古と考えられている、江戸後期の探検家木村謙次によって収集されたアットゥシ（オヒョウなどの植物から採取した靱皮繊維を糸にして織られた樹皮衣）。木村が蝦夷地探索の旅を記録した『蝦夷日記』（1799年）には、虻田において、アットゥシを購入したことが記されています。いまも木村家の家宝として伝わるこのアットゥシは、アイヌ民族の衣文化の歴史を遡り、製作技術や装飾技法を知る上で重要な資料のひとつです。

江戸中期以降は木綿衣が中心となってつくられ、衣服に施される文様は多彩な素材の置布や色糸を用いた刺繍の形などで構成されます。それらの文様は、大胆に配置され、しばしばその形や使われる布は左右非対称であり、力強さを際立たせています。一方で、針目が精緻な刺しゅうや、細やかに配置された小さな色布から、完成度の意識の高さをみることができます。文様は二つとして同じものはなく、華やかで力強い独特な文様をほどこした衣服から、母から娘に、そして現代に受け継がれる伝統的な手縫いの技術と、作り手の類い稀な美意識を感じることができました。

本展のもう一つの見どころは、北海道初公開となる、描かれた蝦夷の最古の画例である重要文化財『聖徳太子絵伝』や国宝「伊能忠敬測量図下図」、重要文化財『東西蝦夷地大河之図』などの絵画資料や歴史資料の数々です。茨城県立歴史館にて同展が開催されることから、常陸国と蝦夷地の歴史的関係について焦点をあてました。これらの史資料に記載された豊富かつ正確なアイヌ語地名などから、アイヌ民族の歴史を学ぶと共に、かつての蝦夷地へのまなざしが、茨城ゆかりの先人たちによってひととかれていく過程を追う機会となったのではないのでしょうか。

宮地 鼓（主任学芸員 / 地球科学）

## 勇武津資料館通信

当館では、ふるさと歴史講座・ふるさと探訪・生活体験教室・機織り体験教室など、16項目の事業を実施しています。そのほかにも出前講座など、一般の団体、小・中学校も含め随時に依頼のある体験教室などに対応しています。以下に28年度に実施した主な行事を紹介したいと思います。

ふるさと歴史講座は「明治時代における勇払」（1月）、「文学にみる勇払」（2月）、「苦小牧に人が住み始めた頃」（3月）の表題で3回開催されました。

「明治時代における勇払」では、副題を「開墾のあけぼの」とし、幕末の蝦夷地・明治時代における勇払について講演していただきました。

特に、幕末の坂本龍馬の手紙からの蝦夷地開拓構想、明治期に初めて米作りを成功させ、勇払・島松に従事した「中山久蔵」の事績など、佐藤麻莉学芸員が専門分野の古文書の読解を駆使した解説に参加者も充実した面もちでした。

「文学にみる勇払」では、苦小牧市民文芸の事務局長であり、当資料館友の会副会長でもある山上正一氏が、◎風化す

る歴史、◎原野喪失、◎望郷という幻想、◎未来へ、の四つの柱の流れで「勇払」をとらえて解説したものです。

内容は多岐に渡っていて、地元作家の詩歌を中心に、創作・随筆では、著名な作家の井上やすしの『四千万歩の男』、佐々木譲の『五稜郭残党伝』などに登場する「勇払」を紹介しています。あまり接することの少ない、100ページ近い参考資料の内容は圧巻で、勇払を見直す貴重な講座でした。

歴史講座の最終は、当館の赤石学芸員による講演で、苦小牧で発見された縄文時代早期の遺跡から、当時の様相を住居跡、出土した土器・石器などの紹介による解説は非常に興味深いものでした。

ふるさと探訪は「勇払の植物観察会」（7月）、「勇払の歴史散歩」（9月）、「勇払海岸の漂着物調査」（10月）でしたが、漂着物調査は荒天のため中止しました。植物観察会では、前年確認されていた外来種の「オニハマダイコン」のその後の状況調査でした。その結果、土壌の移動によるものか海浜の背後における個体数の群度（密度）が小さくなりました。歴史散歩は、「不動尊堂」と会

所跡の位置関係を古い絵図を使って、実際に現地を歩いて実感するというものでした。

生活体験教室は、例年同様8回実施しました。特に、8月に今回から始めた「藍染めに挑戦」は、資料館の「八王子千人同心学習耕作畑」と手織りサークル「ゆのみ」で育てた藍を使った染物体験で、30人近い参加者で大盛況でした。

これも新しい試みでしたが、出前講座で「布草履を作ろう」を依頼され実施したところ、好評でしたので来年度の「生活体験教室」に組み込もうと思います。

昨年書きましたが、新規事業も増え、来年度も勇武津資料館を主体とした勇払地区に、さらに人の動きが出てくるようになればと期待しています。

二階堂 啓也（嘱託事務員）



布草履を作ろう

## 館長コラム

### 一年を振り返って

早いもので、博物館が平成25年7月に美術博物館としてリニューアル開館して、はや3年を過ぎました。おかげさまで、多くの方々にご来館いただき年間利用者数は博物館時代と比べると1万人を上回る3万人に達しています。これもひとえに、市民の皆様のご理解と各方面にわたる関係者や関係機関のご支援、ご協力の賜物であると、深く感謝しています。

昨年9月20日、常設展の中で紹介されている「開拓使三角測量勇払基線」が公益社団法人土木学会から「正確な北海道

地図作製のため欧米の近代測量技術で行われた三角測量基線の位置を示す遺産であり、わが国における基線測量の嚆矢である。」として選奨土木遺産として認定されました。

開拓使三角測量勇払基線は、1873(明治6)年に開拓使が北海道の開拓を進めるにあたり、正確な地図を作成するため招致した米国人ジェームス・R・ワットソン、モルレー・S・ディが米国式の測量技術である三角測量を実施するために、勇払と鶴川間に設定したものです。実施された三角測量は、日本で最初に本格的な近代測量技術を導入した事業で、我が国における近代測量の原点ともいえるものです。今後は、歴史的価値に加えて学

術的にも大変高い評価をいただきましたことを機会に、さらに、多くの市民の皆様はその偉業を紹介していきたいと思えます。最後になりますが、今後も、地域に根ざした施設、楽しみながら学んでいただける施設として職員一同努力して参りたいと思っていますので、ご支援のほど宜しくお願いいたします。

荒川 忠宏(館長/地質)



## 平成29年度 展示会情報

### 特別展

トヨタ自動車北海道株式会社創業 25 周年記念  
水から未来を紡いで 20世紀美術の創造  
7月27日(木)～8月27日(日)

柳原良平展(仮称)

9月9日(土)～11月12日(日)

### 中庭展示

vol.09 松井紫朗 4月29日(土・祝)～8月27日(日)  
vol.10 前田育子 9月9日(土)～11月12日(日)

### 美術博物館祭 2017

7月28日(金)～7月30日(日)

### 企画展

恐竜の玉手箱

4月29日(土・祝)～6月4日(日)

NITTAN ART FILE2: クロスオーバー

6月17日(土)～7月17日(月・祝)

ライチョウの四季一季節を纏う神の鳥  
高橋広平写真展

11月23日(木・祝)～1月21日(日)

### 三二企画展

昔の道具～火と人々の暮らし

9月9日(土)～11月12日(日)

### 収蔵品展

川上澄生と北海道

4月29日(土・祝)～6月4日(日)

苫小牧市美術博物館所蔵名品選(仮称)

2月3日(土)～3月11日(日)

\*展覧会の名称及び内容、時期等は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

## 収蔵資料紹介 展示室から

### 下駄スケート



下駄スケートは、明治～昭和時代に使われた道具で、下駄の裏側にスケートの刃に似た鉄の板を取り付けて雪や氷の上を滑ります。

苫小牧は積雪が少なく、寒さが厳しい地域です。昔は湖沼や湿地が多かったため、冬になるとそれらが凍って天然のスケートリンクとなり(表紙画像)、子ども達は足袋の上の下駄スケートを履いて遊んだのでした。

この資料は、大正時代に使用されたもので、台表には「苫小牧町立高等女学校」の焼印が押されています。

下駄スケートはその後、雪スケート(機械スケート)、靴スケートへと移り変わりますが、「スケートのまち苫小牧」の歴史を知る上では欠かせない資料の一つです。

佐藤 麻莉(学芸員/歴史)

### 編集後記

これまでの企画を掲載したニューズレターのバックナンバーは当館のホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください!

福田 絵梨子(学芸員/美術)

苫小牧市  
美術博物館だより

平成29年3月31日発行・第4号  
編集・発行: 苫小牧市美術博物館 〒053-0011 苫小牧市末広町3丁目9-7  
TEL 0144-35-2550 FAX 0144-34-0408  
URL <http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>